

推薦人員

高等学校長が推薦できる人員は、1 校につき 6 名以内(その内地域推薦入試に推薦できるのは 3 名以内)とします。なお、両方に出願した場合は、1 名と数えます。

選抜方法等**(1) 選抜方法・配点**

大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、高等学校長からの推薦書に基づき、一般推薦・地域推薦ごとの選抜方法によって選抜を行います。

一般推薦・地域推薦において志望する選抜区分を出願時に選んで頂きます。なお、両方に出願した場合に選択する選抜区分は同一のものに限ります。

[一般推薦]

専門への関心や知識、課題探究能力を重視し、調査書、専門課題、面接の成績を総合して判定します。

[地域推薦]

地域への関心と教育への熱意を重視し、調査書、小論文(60 分)、面接の成績を総合して判定します。

試験科目の実施内容と配点は次のとおりです。

試験科目	実施内容	配点
一般推薦	志望する専門領域への関心や知識、技能、活動実績、問題解決能力をみるものです。小論文や実技等の形式で検査します。選抜区分ごとに、時間や内容が異なります。	100
面接	面接の際には推薦書、調査書の内容を参考とします。また、口頭試問などを含む場合があります。受験者数が多い選抜区分では、集団面接を行います。なお、初等英語専攻及び英語専攻では面接は一部英語で行われます。	100
		計 200

推薦人員

高等学校長が推薦できる人員は、1 校につき 6 名以内(その内地域推薦入試に推薦できるのは 3 名以内)とします。なお、両方に出願した場合は、1 名と数えます。

選抜方法等**(1) 選抜方法・配点**

大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、高等学校長からの推薦書に基づき、一般推薦・地域推薦ごとの選抜方法によって選抜を行います。

[一般推薦]

専門への関心や知識、課題探究能力を重視し、調査書、共通小論文(60 分)、専門課題、面接の成績を総合して判定します。

[地域推薦]

地域への関心と教育への熱意を重視し、調査書、小論文(90 分)、集団討論、集団面接の成績を総合して判定します。

試験科目の実施内容と配点は次のとおりです。

試験科目	実施内容	配点
共通小論文	教育に関するテーマについて出題します。論説文などの資料を提示する場合があります。	100
一般推薦	志望する専門領域への関心や知識、技能、活動実績、問題解決能力をみるものです。小論文又は実技等の形式で検査します。選抜区分ごとに、時間や内容が異なります。	100
面接	面接の際には推薦書、調査書の内容を参考とします。また、口頭試問などを含む場合があります。受験者数が多い選抜区分では、集団面接を行います。なお、初等英語専攻及び英語専攻では面接は一部英語で行われます。	100
		計 300

2020 年度			2018 年度(平成 30 年度)				
地域推薦	小論文	自然・歴史・文化・産業・教育・環境そのほか地域社会全般にかかわるテーマについて出題します。論説文や統計などの資料を提示する場合があります。	200	小論文	自然・歴史・文化・産業・教育・環境そのほか地域社会全般にかかわるテーマについて出題します。論説文や統計などの資料を提示する場合があります。	100	計 200
	面接	面接の際には推薦書、調査書の内容を参考とします。また、口頭試問などを含む場合があります。受験者数が多い選抜区分では、集団面接を行います。なお、初等英語専攻及び英語専攻では面接は一部英語で行われます。	A・B 評価	集団討論	5～8 名程度に班分けしたグループごとに、その場で提示されるテーマによる自由討論を実施します。時間は 15～20 分です。	50	
				集団面接	挙手もしくは面接担当者からの質問によって、意見や志望動機を述べてもらいます(1つの質問につき1分以内)。面接の際には推薦書、調査書の内容を参考とします。	50	
<p>配点については以下の点にご注意ください。</p> <p>(注) ① 一般推薦で体育専攻及び保健体育専攻の面接の評価には競技歴を含みます。</p> <p>② 一般推薦の初等英語専攻及び英語専攻については、専門課題 50 点、面接 150 点で計 200 点とします。</p> <p>③ 地域推薦の面接において得点により A 評価、B 評価を判定します。</p>				<p>配点については以下の点にご注意ください。</p> <p>(注) ① 一般推薦で体育専攻及び保健体育専攻の面接の配点には競技歴を含みます。</p> <p>② 一般推薦の初等英語専攻及び英語専攻については、共通小論文 100 点、専門課題 50 点、面接 150 点で計 300 点とします。</p>			
<p>(2) 合否判定基準</p> <p>① 一般推薦は、選抜区分ごとに試験科目の総合点によって、順位を決定し、合否を判定します。総合点の同点者は同順位として扱います。</p> <p>② 地域推薦は、面接において A 評価の者の中で、小論文の得点によって、順位を決定し、合否を判定します。同点者は同順位として扱います。</p> <p>③ 本学部が実施する試験において、必要とする小論文・専門課題・面接の一部又は全部を受験しなかった者は、合否判定の対象になりません。</p> <p>④ 一般推薦と地域推薦の両方を受験していずれも合格の基準に達した場合は、地域推薦での合格として扱います。</p>				<p>(2) 合否判定基準</p> <p>① 選抜区分ごとに試験科目の総合点によって、順位を決定し、合否を判定します。総合点の同点者は同順位として扱います。</p> <p>② 本学部が実施する試験において、必要とする小論文・専門課題・集団討論・集団面接の一部又は全部を受験しなかった者は、合否判定の対象になりません。</p> <p>③ 一般推薦と地域推薦の両方を受験していずれも合格した場合は、地域推薦での合格として扱います。</p>			

(3) コース等への所属のしかた

- ① 合格者は、出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。
- ② 初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1 年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。

(4) 専門課題の出題方針等

下記の通り各専攻・専修ごとに実施します。

【小論文】

教育文化専攻
 教育心理実践専攻
 幼児教育専攻
 国際理解教育専攻
 環境教育専攻
 社会専修 社会専攻
 算数専修 数学専攻
 初等理科専攻 理科専攻
 体育専修 保健体育専攻
 情報・技術専修 情報・技術専攻
 家庭専修 家庭専攻
 障害児教育専攻

【実 技及び小論文】

国語専修 国語専攻

【実 技】

音楽専修 音楽専攻 ※一部論述形式
 図画工作専修 美術専攻

【リスニング】

初等英語専攻 英語専攻

(3) コース等への所属のしかた

- ① 一般推薦による合格者は、出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。
- ② 地域推薦による合格者は、入学手続き時に希望する選抜区分の専攻・専修を申請し、その選抜区分の専攻・専修に所属します。一般推薦と併願した場合は、その可否にかかわらず一般推薦で出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。
- ③ 初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1 年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。

(4) 専門課題の出題方針等

下記の通り各専攻・専修ごとに実施します。

【小論文】

教育文化専攻
 学校心理専攻
 学校臨床専攻
 幼児教育専攻
 国際理解教育専攻
 環境教育専攻
 社会専修 社会専攻
 算数専修 数学専攻
 初等理科専攻 理科専攻
 体育専修 保健体育専攻
 情報・技術専修 情報・技術専攻
 家庭専修 家庭専攻
 障害児教育専攻

【実 技】

国語専修 国語専攻
 音楽専修 音楽専攻
 図画工作専修 美術専攻

【リスニング】

初等英語専攻 英語専攻

2. 帰国子女入試

教育学部において、選抜方法を次表のとおり変更する。

選抜方法等の詳細については、2020年度学生募集要項等で公表します。

2020年度		2018年度(平成30年度)	
選抜方法等 (1) 選抜方法・配点 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、専門課題及び面接の成績と出願書類を総合して判定します。 試験科目の実施内容と配点は次のとおりです。		選抜方法等 (1) 選抜方法・配点 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、共通小論文、専門課題及び面接の成績と出願書類を総合して判定します。 試験科目の実施内容と配点は次のとおりです。	
試験科目	実施内容	配点	配点
専門課題	志望する専門領域への関心や知識、技能、活動実績、問題解決能力をみるものです。小論文や実技等の形式で検査します。選抜区分ごとに、時間や内容が異なります。	100	100
面接	選抜区分別に行います。面接の際には出願書類の内容を参考とします。なお、初等英語専攻及び英語専攻では面接は一部英語で行われます。	100	100
		計 200	計 300
(注) 初等英語専攻及び英語専攻については、専門課題 50点、面接 150点で計 200点とします。			
(2) 合否判定基準 ① 選抜区分ごとに試験科目の総合点によって、順位を決定し、合否を判定します。総合点の同点者は同順位として扱います。 ② 本学部が実施する試験において、必要とする専門課題、面接の一部又は全部を受験しなかった者は、合否判定の対象にはなりません。		(2) 合否判定基準 ① 選抜区分ごとに試験科目の総合点によって、順位を決定し、合否を判定します。総合点の同点者は同順位として扱います。 ② 本学部が実施する試験において、必要とする共通小論文、専門課題、面接の一部又は全部を受験しなかった者は、合否判定の対象にはなりません。	
(3) コース等への所属のしかた ① 合格者は、出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。 ② 初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。		(3) コース等への所属のしかた ① 合格者は、出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。 ② 初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。	

2020 年度	2018 年度(平成 30 年度)
<p>(4) 専門課題の出題方針等</p> <p>下記の通り各専攻・専修ごとに実施します。</p> <p>【小論文】 教育文化専攻 教育心理実践専攻 幼児教育専攻 国際理解教育専攻 環境教育専攻 社会専修 社会専攻 算数専修 数学専攻 初等理科専攻 理科専攻 体育専修 保健体育専攻 情報・技術専修 情報・技術専攻 家庭専修 家庭専攻 障害児教育専攻</p> <p>【実 技及び小論文】 国語専修 国語専攻</p> <p>【実 技】 音楽専修 音楽専攻 ※一部論述形式 図画工作専修 美術専攻</p> <p>【リスニング】 初等英語専攻 英語専攻</p>	<p>(4) 専門課題の出題方針等</p> <p>下記の通り各専攻・専修ごとに実施します。</p> <p>【小論文】 教育文化専攻 学校心理専攻 学校臨床専攻 幼児教育専攻 国際理解教育専攻 環境教育専攻 社会専修 社会専攻 算数専修 数学専攻 初等理科専攻 理科専攻 体育専修 保健体育専攻 情報・技術専修 情報・技術専攻 家庭専修 家庭専攻 障害児教育専攻</p> <p>【実 技】 国語専修 国語専攻 音楽専修 音楽専攻 図画工作専修 美術専攻</p> <p>【リスニング】 初等英語専攻 英語専攻</p>

3. 社会人入試

教育学部において、選抜方法を次表のとおり変更する。

選抜方法等の詳細については、2020年度学生募集要項等で公表します。

2020年度				2018年度(平成30年度)			
選抜方法等				選抜方法等			
(1) 選抜方法・配点				(1) 選抜方法・配点			
<p>入学者の選抜は、個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、専門課題及び面接を課し、その成績と出願書類を総合して判定します。</p> <p>試験科目の実施内容と配点は次のとおりです。</p>				<p>入学者の選抜は、個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、共通小論文及び面接を課し、その成績と出願書類を総合して判定します。</p> <p>試験科目の実施内容と配点は次のとおりです。</p>			
試験科目	実施内容	配点		試験科目	実施内容	配点	
専門課題	志望する専門領域への関心や知識、技能、活動実績、問題解決能力をみるものです。小論文や実技等の形式で検査します。選抜区分ごとに、時間や内容が異なります。	100	計 200	共通小論文	教育に関するテーマについて出題します。論説文などの資料を提示する場合があります。	100	計 200
面接	選抜区分別に行います。面接の際には出願書類の内容を参考とします。なお、初等英語専攻及び英語専攻では面接は一部英語で行われます。	100		面接	選抜区分別に行います。面接の際には出願書類の内容を参考とします。なお、初等英語専攻及び英語専攻では面接は一部英語で行われます。	100	
<p>(注) 初等英語専攻及び英語専攻については、専門課題 50点、面接 150点で計 200点とします。</p>							
(2) 合否判定基準				(2) 合否判定基準			
<p>① 選抜区分ごとに試験科目の総合点によって、順位を決定し、合否を判定します。総合点の同点者は同順位として扱います。</p> <p>② 本学部が実施する試験において、必要とする共通小論文・面接の一部又は全部を受験しなかった者は、合否判定の対象にはなりません。</p>				<p>③ 選抜区分ごとに試験科目の総合点によって、順位を決定し、合否を判定します。総合点の同点者は同順位として扱います。</p> <p>④ 本学部が実施する試験において、必要とする共通小論文・面接の一部又は全部を受験しなかった者は、合否判定の対象にはなりません。</p>			
(3) コース等への所属のしかた				(3) コース等への所属のしかた			
<p>① 合格者は、出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。</p> <p>② 初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。</p>				<p>① 合格者は、出願した選抜区分の専攻・専修に所属します。</p> <p>② 初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績等により決定します。</p>			

2020 年度	2018 年度(平成 30 年度)
<p>(4) 専門課題の出題方針等</p> <p>下記の通り各専攻・専修ごとに実施します。</p> <p>【小論文】 教育文化専攻 教育心理実践専攻 幼児教育専攻 国際理解教育専攻 環境教育専攻 国語専修 国語専攻 社会専修 社会専攻 算数専修 数学専攻 初等理科専攻 理科専攻 体育専修 保健体育専攻 情報・技術専修 情報・技術専攻 家庭専修 家庭専攻 障害児教育専攻</p> <p>【実 技】 音楽専修 音楽専攻 ※一部論述形式 図画工作専修 美術専攻</p> <p>【リスニング】 初等英語専攻 英語専攻</p>	